

令和5年度 東京の林業振興に向けた専門懇談会（第2回）

次第

日 時 : 令和5年10月26日（木）
15時30分～17時00分
場 所 : 青梅合同庁舎3階 第1・2会議室

1 開会

2 議事

懇談会でのご意見を踏まえた今後の施策の展開について

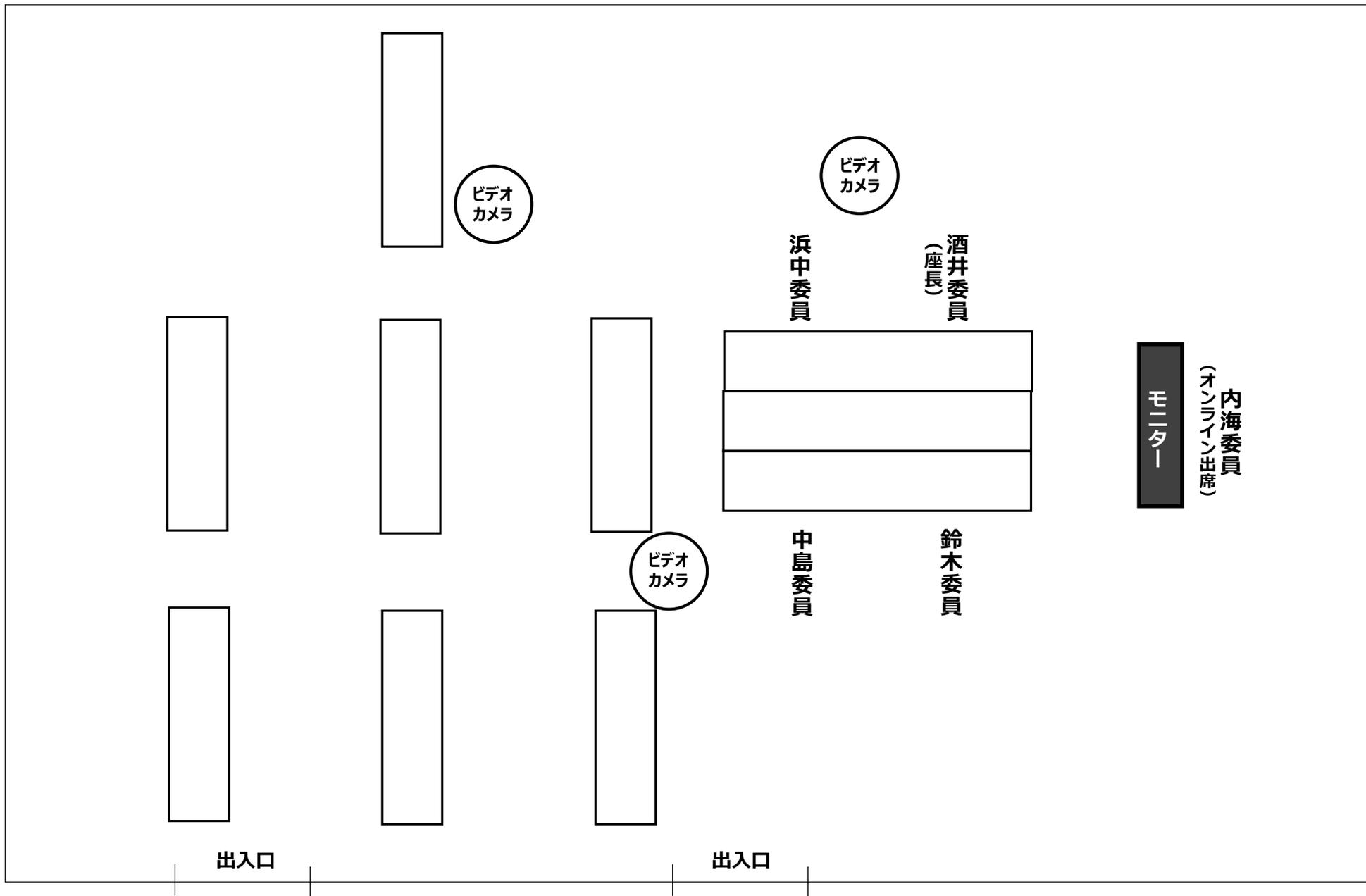
3 閉会

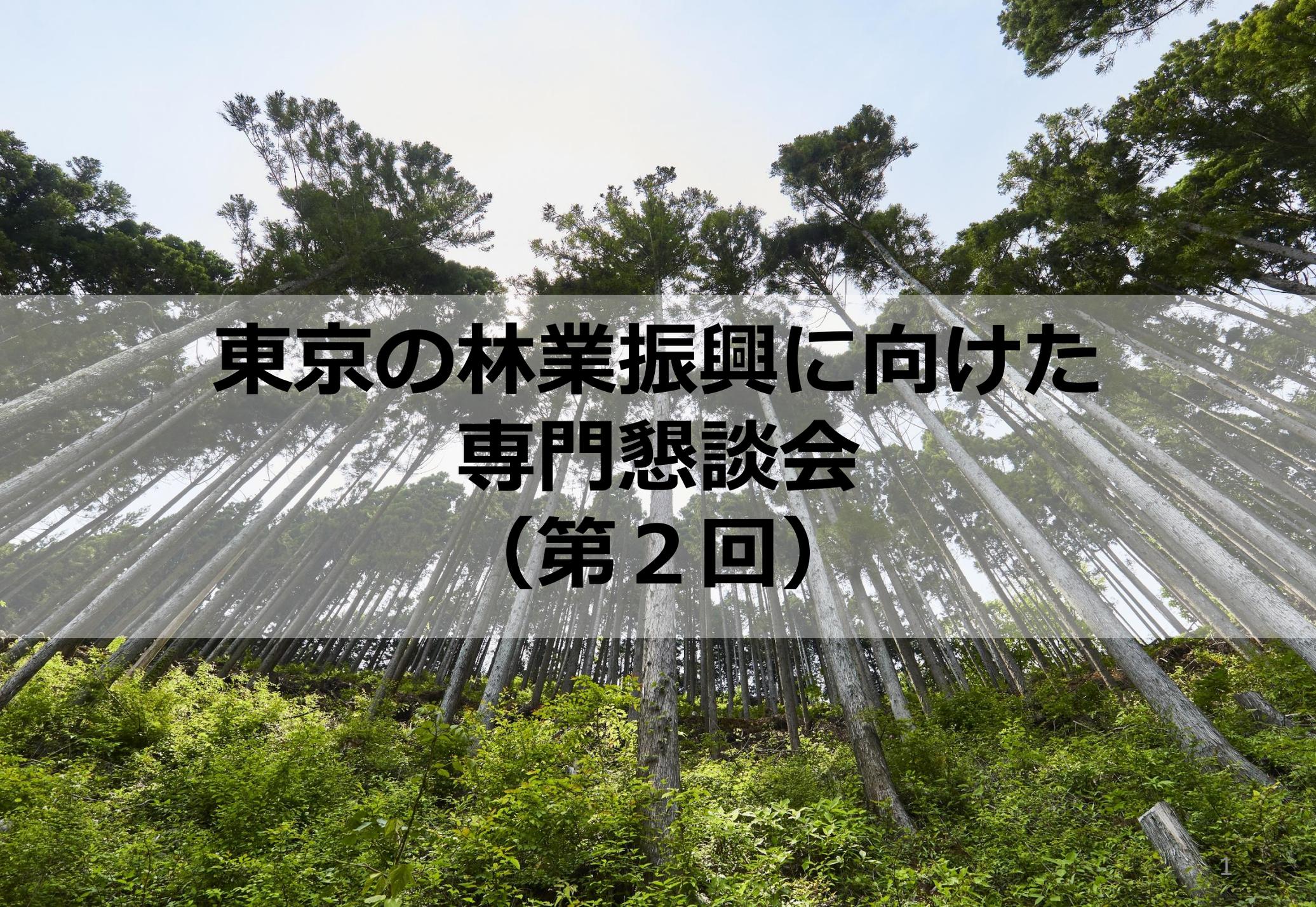
東京の林業振興に向けた専門懇談会 委員名簿

氏名	現職等
内海 彩	株式会社内海彩・長谷川龍友建築設計事務所 代表取締役
酒井 秀夫	一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会 会長
鈴木 敦子	認定NPO法人環境リレーションズ研究所 理事長
中島 大輔	中島林業 代表
浜中 康一	有限会社浜中材木店 代表取締役

(五十音順・敬称略)

東京の林業振興に向けた専門懇談会(第2回) : 10/26(木)15:30~17:00 青梅合同庁舎 3階第1・2会議室





東京の林業振興に向けた 専門懇談会 (第2回)

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性①

分野

森林循環の促進に向けた担い手の確保と体制の強化

委員からの意見

○林業・木材産業事業者への支援

- 現場で必要な**知識・技術の取得支援等**が必要

○担い手の確保

- **林業体験**の**受入可能な事業者**を案内する方法を検討すべき
- **伐採**だけでなく**造林**をする人材も足りていない

施策の方向性

○林業・木材産業事業者への支援

- 花粉症対策も見据え、**伐採、植替、保育**の計画的な実施
- **経営力強化**のため、**専門家派遣等**による**支援を充実**

○担い手の確保

- WEBサイト「**林業就業NAVI**」による情報提供
- 造林作業等の人材育成を図るためとうきょう林業サポート隊を活用

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性②

分野

先進林業機械の導入拡大と技術者育成

委員からの意見

○林業機械を使う技術者の育成

- 高度な林業機械を使いこなせる事業者を増やすことも必要

○スマート林業の推進

- スマホやウェアラブル端末の活用など、東京の現場に即したスマート林業の推進を図るべき
- 森林作業の現場で、スギ等の樹高や太さ、森林の境界等の見える化が出来ると良い

施策の方向性

○林業機械を使う技術者の育成

- 先進林業機械の更なる活用
- 林業機械の操作技術習得に向けた研修の充実

○スマート林業の推進

- 先進技術の活用により、森林整備の効率化を促進

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性③

分野

多摩産材のブランド化・多摩産材等の利用拡大

委員からの意見

○「とうきょうの木」のPR

- ・ 「とうきょうの木」ブランドの認知度が低い
- ・ 多摩産材はフローリングや羽目板などの内装材を主体に活用すべき

○丸太の価値向上

- ・ 丸太の商品価値を高めるため、伐採事業者の技量の向上も必要

○需要創出に向けた機運醸成

- ・ 消費者に対し割れ等も木材の特性だと理解してもらう仕組みが必要

施策の方向性

○「とうきょうの木」のPR

- ・ 「モクナビ（多摩産材情報発信拠点）」などを通じたPRの強化
- ・ 木材利用ポイント事業を通じ、内装材等への活用を促進

○丸太の価値向上

- ・ 伐採技術者の技術向上に向けた研修を強化

○需要創出に向けた機運醸成

- ・ 多摩産材等の効果的なPRに向けた取組の強化

林業専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性④

分野

多様な主体による森林整備の促進

委員からの意見

○森林環境譲与税の効果的な活用

- 森林環境譲与税の使い方を工夫し、**モデル的取組**を発信していくべき

○企業による森林利用の促進

- 森林は、忙しいサラリーマンにとって**癒しの場**でもある
- 事業者として協力したいが、**負担**が大きい

施策の方向性

○森林環境譲与税の効果的な活用

- 都内自治体の連携協定による森林整備等の促進
- 都市部と森林地域の交流機会の提供
- 情報発信による森づくり機運の醸成

○企業による森林利用の促進

- **企業が参加しやすい**森林整備の仕組みを提供